ごん吉くんレポート
～南吉よもやま話～

第54回

ベラルーシの子どもたちの絵

ベラルーシ共和国。このロシアとポーランドに挟まれた小国の名を、半年前まではどれほどの日本人が知っていたでしょうか。

いまベラルーシでは、8月の大統領選挙での不正を訴えるデモをきっかけに民主化運動が盛んになり、その様子は世界中から注目されています。

そんなベラルーシから昨年、子どもたちが南吉童話を読んで描いた絵16枚が送られてきました。ベラルーシではロシア語とベラルーシ語に訳された南吉童話集が発行されていて、その本を読んでくれたのです。

童話集は、首都ミンスクの図書館に併設されている日本文化情報センターが出版しました。センターでは代表の辰巳雅子さんが中心となって、日本語教室や書道体験などを通じて日本を知ってもらおうとしています。童話集の翻訳と出版も、そうした日本の文化を広めるための活動の一環です。

辰巳さんは、童話集をベラルーシとロシア語圏諸国の図書館などに寄贈し、司書や子どもたちに感想を書いてもらっては南吉記念館に送ってくださっています。今回はミンスクのハーモニー絵画教室に通う7歳から13歳の子どもたちが童話集を読み、その一場面を想像して絵を描いてくれました。

描かれた南吉童話は十編で、面白いと思ったのは「ごん狐」や「手袋を買いに」といった日本では定番の南吉童話を選ぶ子どもがさほど多くないことです。考えてみれば当然で、彼らは教科書で習っていませんから、童話集を読んで純粋に自分が心惹かれた作品を絵にしてくれたのです。

一番多かったのは3人が選んだ「かんざし」でした。池にかんざしを落とした少女が魚に拾ってほしいと頼みますが、自分のものにしたい魚はきいてくれません。しかし、結局は自分の頭には挿せないことに気づいてかんざしを少女に返す、という話です。かんざしという日本らしい装身具にエキゾチックな魅力を感じたのでしょう。

先月には、センターの日本語教室に学ぶ生徒らが日本語とベラルーシ語で南吉の詩「明日」を朗読した動画も届きました。ユーチューブで公開されていて、新美南吉記念館のホームページからも見られます。

寄贈された絵は、11月20日から12月13日までクラシティ3階の市民交流センターで展示します。どうか、ベラルーシの子どもや若者たちの明日が明るくありますように。

新美南吉記念館　遠山光嗣

▲「かんざし」の感想画(左)と絵画教室の子どもたち。

みなさんの声を聞かせてください　アンケート

Q1 今号でよかった内容や写真があれば教えてください。

Q2 今号を読んだことがきっかけで行動したこと、または、したいことはありましたか。

Q3 市報で取り上げてほしい内容や企画、広報に関するご意見・ご感想などありましたらお聞かせください。

回答方法

住所、氏名、年齢、アンケートを書いて、ご送付ください。

あ て 先

〒475-8666
東洋町2-1
企画課
Eメール
kouhou@city.handa.lg.jp

編集後記

表紙にて、Go To Eatキャンペーンの食事券が利用できるお店に立っている「のぼり」を紹介しました。食事券の第2期販売日は、11月16日とのことです。

半田市には、美味しい飲食店がたくさんあるので、どこに行くか迷ってしまいますよね。食事券の利用を通じて、市内の飲食店をみんなで応援していきましょう。

（浅野）

編集・発行　半田市企画課　〒475-8666 半田市東洋町二丁目1番地　☎0569-21-3111(代表)　FAX0569-25-2180
毎月1・15日発行(5月・8月・12月は月1回)　http://www.city.handa.lg.jp/　Eメール　kouhou@city.handa.lg.jp
情熱、蔵出し。半田市。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
QRコードは㈱デンソーウェーブの登録商標です。
VEGETABLE OIL INK
植物油インキ使用
印刷　中埜総合印刷㈱